

基礎看護学Ⅴ

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 柏木 ゆきえ 特任准教授		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座、看護専門基礎講座		
対象学年	2	区分・時間数	講義 19.5 時間 演習 25.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

健康上の問題を持つ対象の安全・安楽および自立を図り、看護援助としての診療に伴う援助技術を学ぶ。具体的には、吸引・吸入・酸素吸入という呼吸を整えるための援助、無菌操作、導尿、包帯法、薬物療法として注射の実施、血液検査などの検査等について演習を通して技術の習得を目指す。また、エンゼルケアという考え方にも触れる。

この授業は2年次前期に開講し、その後基礎看護学実習Ⅱが実施される。実習も見据え、事例を用いて看護過程に基づく思考過程にそって、看護技術を実施し、看護をすることの意義について学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

解剖生理学や生化学等の看護専門基礎科目と既習の基礎看護技術における知識を統合させながら、診療に伴う技術としての、呼吸を楽にする技術、創傷の管理技術、与薬・輸血の技術、検査に伴う看護技術を修得することができる。看護技術の原理・原則と診療の目的を考えながら、安全・安楽な方法を考え、実施できるようになる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：1, 2, 3, 4

・到達目標（SBO）

1. 診断・治療の場面における看護技術の意義・方法・留意点を述べることができる。
2. 感染予防・呼吸の管理・与薬・静脈血採血の技術を実施できる。
3. 診療を受けている患者の身体面や心理面に合わせた援助方法を選択し、根拠に基づいた安全な援助を実施することができる。
4. 演習で経験する看護技術の修得に向けて主体的に行動することができる。

・授業日程

(矢) 西 1-B 講義室、(矢) マルチ 2-A 実習室、(矢) マルチ 2-B 実習室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
4/8	金	3	共通基盤看護学講座	小林 由美子 講師	排泄を促す技術 導尿（一時的導尿,持続的導尿） 導尿に必要な滅菌物の取り扱い ・導尿の目的,方法と留意点を説明できる ・鑷子の使い方,消毒綿球の扱い方, 滅菌手袋の装着方法を説明できる
4/8	金	4	看護専門基礎講座	一ノ渡 学 講師	感染予防を推進する技術 ・感染症を成立させる要素と成立過程 を説明できる ・滅菌と消毒について説明できる
4/19	火	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授	検査を安全かつ正確に行う技術 ・各種検査の目的と看護師の役割につ いて述べることができる
4/19	火	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授	エンゼルケア（死後のケア） ・エンゼルケアの目的,方法と留意点 を述べることができる
5/13	金	3	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 特任准教授	呼吸を楽にする援助技術 （呼吸方法,痰を喀出させる方法） ・気道分泌物の排出の援助方法と留意 点を説明できる
5/13	金	4	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 特任准教授	呼吸を楽にする援助技術 （酸素療法） ・酸素吸入療法の意義,援助の方法と 留意点を説明できる
5/25	水	4	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 特任准教授	与薬を安全かつ正確に行う技術 （与薬） ・薬物療法の意義と目的を説明できる ・各種与薬の方法と留意点を説明できる
5/27	金	3	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 特任准教授	与薬を安全かつ正確に行う技術 （注射） ・各種注射の方法と留意点を説明できる
5/27	金	4	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 特任准教授	与薬を安全かつ正確に行う技術 （点滴静脈内注射） ・各種点滴静脈内注射の方法と留意点 を説明できる

6/3	金	3	共通基盤看護学講座	小林 由美子 講師	<p>輸血を安全かつ正確に行う技術 検査を安全かつ正確に行う技術 (血液検査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸血療法の目的と種類,方法と留意点について説明できる ・血液検査の目的と種類を述べることができる ・採血の方法と留意点について説明できる
6/3	金	4	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 特任准教授	<p>皮膚・創傷を管理する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創傷の種類および治療過程を説明できる ・褥瘡発生のしくみや好発部位,褥瘡の予防方法を説明できる ・包帯法の目的,種類と特徴を説明できる
6/14	火	3	看護専門基礎講座	塚本 恭正 准教授	<p>基礎看護技術に必要な計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場で求められる薬物の希釈と投与量の計算を正しく行うことができる ・酸素ボンベの残量と点滴の滴下数を求める計算を正しく行うことができる
6/28	火	3	看護専門基礎講座	塚本 恭正 准教授	<p>検査を安全かつ正確に行う技術 (放射線を用いた画像診断)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線や放射性物質を利用した診断の概要を説明できる ・放射線診断に伴う被ばくの健康への影響を説明できる

【演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
4/15	金	3	共通基盤看護学講座	菫蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	<p>感染予防を推進する技術 (滅菌物の取り扱い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滅菌物の取り扱い方法と留意点を説明できる ・滅菌物の取り扱いができる
4/15	金	4	共通基盤看護学講座	菫蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	<p>感染予防を推進する技術 (滅菌手袋) (ガウンの着脱)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滅菌手袋・ガウンの着脱ができる

5/6	金	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	排泄を促す技術 (一時的導尿) ・一時的導尿を根拠に基づいて実施できる
5/6	金	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	排泄を促す技術 (持続的導尿) ・持続的導尿の方法と留意点を説明できる
5/20	金	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	呼吸を楽にする援助技術 (鼻腔内吸引) ・鼻腔からの一時的吸引を根拠に基づいて実施できる
5/20	金	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	呼吸を楽にする援助技術 (酸素療法) ・酸素療法を根拠に基づいて実施できる
5/20	金	5	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	呼吸を楽にする援助技術 (酸素ポンベの操作) ・酸素ポンベの操作を実施できる
6/10	金	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	与薬を安全かつ正確に行う技術 (皮下注射) ・皮下注射を根拠に基づいて実施できる
6/10	金	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	与薬を安全かつ正確に行う技術 (筋肉内注射) ・筋肉内注射を根拠に基づいて実施できる
6/17	金	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	与薬を安全かつ正確に行う技術 (点滴静脈内注射) ・点滴静脈内注射を根拠に基づいて実施できる
6/17	金	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	与薬を安全かつ正確に行う技術 (点滴の管理) ・点滴の滴下調整が実施できる
6/24	金	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	検査を安全かつ正確に行う技術 (静脈血採血) ・採血を根拠に基づいて実施できる

6/24	金	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	検査に伴う援助技術 (静脈血採血) ・採血を根拠に基づいて実施できる
7/1	金	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	事例に対する看護技術の実践 事前演習 ・患者の状態に合わせた援助方法,留意点について説明できる *演習の中で学生同士のディスカッションの機会を設ける
7/1	金	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	事例に対する看護技術の実践 事前演習 ・患者の状態に合わせた援助方法,留意点について説明できる *演習の中で学生同士のディスカッションの機会を設ける
7/8	金	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	事例に対する看護技術の実践 ・患者の状態に合わせた援助方法を選択し,実施することができる
7/8	金	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	事例に対する看護技術の実践 ・患者の状態に合わせた援助方法を選択し,実施することができる

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	ナーシング・グラフィカ基礎 看護学③基礎看護技術 第6版	志自岐康子,他編集	メディカ出版	2021
参	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版	任和子 井川順子 秋山智弥 編集	医学書院	2017
参	看護がみえる vol.1 基礎看護 技術 第1版	医療情報科学研究所 編集	MEDIC MEDIA	2018
参	看護がみえる vol.2 臨床看護 技術 第1版	医療情報科学研究所 編集	MEDIC MEDIA	2018
参	臨床放射線医学 第10版	尾尻博也 編集	医学書院	2021
参	看護計算 薬用量計算 トレー ニング	John Gatefold, Nicole Phillips (時政孝行 訳)	エルゼビアジャパン	2016

・ 成績評価方法

筆記試験 70 点、* 演習への取り組み 30 点の合計 100 点とする。

*演習への取り組み

演習時の実施状況（参加態度・事前準備）、学修課題の実施状況（提出期限厳守・記載内容・視聴覚教材の視聴状況）、提示された事例に対する看護技術の実践

・ 特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

- ・ シラバスに記載されている授業内容および到達目標を確認し、予習した上で授業に臨むこと。本科目での指定の教科書だけでなく、解剖生理学など広く授業内容に関連した教科書の章を事前に読んで参加すること。演習開始前には、関連する教科書の章および配布資料を読む、“e ナーストレーナーの動画”または、“WebClass にあげた動画”の視聴覚教材を視聴するなど、イメージトレーニングを行って、学修のポイントを理解した上で参加すること。また、各回で予習復習を目的とした学修課題が提示されるため、その課題に取り組むこと。各授業について、最低 30 分以上の事前学修を要する。
- ・ この授業で行う診療の補助技術の演習は、原則的に補習は行なわないため、欠席しないこと。やむを得ず欠席した場合には、各自責任をもって自己学修し、技術を修得すること。看護技術の修得は、繰り返し実施することが必要なため、授業終了後も主体的に技術練習を行い、自己学修を重ねて知識と実技の定着に努めること。
- ・ 授業時間を有効に使用するために演習時は物品片付けで授業時間外になることがある。演習の準備と片付けに主体的に参加すること。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

レポート等の課題は、適宜コメントし返却する。

「事例に対する看護技術の実践」の評価は、評価表に基づき評価し、学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

看護師（別表 3）：専門分野 I 基礎看護学

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
演習	CPS 実習ユニットⅡ,接続用吸引器・酸素流量計	4	呼吸を楽にする援助技術
演習	吸引シミュレータ“Qちゃん”	4	吸引
演習	万能型看護実習モデル“八重”	12	導尿・注射
演習	採血・静注シミュレータ“シンジヨーⅡ”	10	採血
演習	鑷子	24	滅菌物の取り扱い